



JAグループ青森四連  
会長  
乙部 輝雄

新年、あけましておめでとうございます。

組合員をはじめJA役職員の皆様におかれましては、今年一年が平穏で実り多い年となりますよう、心よりお祈り申しあげます。

あわせて、地域農業の振興、地域社会の発展に向け、組合員、JA役職員の皆様がご尽力されていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申しあげる次第であります。

さて、昨年を振り返りますと、1月の記録的な豪雪により県内では、パイプハウスや農業施設の倒壊、また、リンゴの枝折れや幹折れが各地において数多く確認され、統計の残る昭和55年以降、最多となる214億円という甚大な被害が発生しました。また、7月には記録的猛暑と少雨の影響により、水田で稻が枯れるといった被害のほか、野菜においても高温障害が出る等大きな影響が出ました。さらに、出来秋を迎えた収穫期を中心に、ツキノワグマが近年にない規模で出没し、その件数は過去最多であった令和5年の2.5倍にあたる約2,800件にも上り、人身被害のほか、多くの食害が確認されております。加えて、12月には青森県東方沖を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し、県南地域を中心に大きな被害が発生しました。

被災された方々には、心からお見舞い申しあげますとともに、今年は、自然災害による被害がないことを祈念してやみません。

一方、全農県本部が示す令和7年産米生産者概算金の目安額については、生産資材や人件費等、生産コストの上昇を背景に、本県産米主要3品種はいずれも過去最高額となりました。また、令和6年産県産リンゴの出荷量は、過去10年間で最も少なかったものの、総販売額が統計史上最高の1,361億円となりました。これらを受け、農林水産省が発表した令和6年の本県農業産出額は、前年に比べ18.8%増の4,119億円と全国7位から5位に順位を上げ、金額・順位とも調査開始以来最高を記録する等、様々な分野において記録ずくめの1年となりました。

このような中、国は新たな「食料・農業・農村基本計画」の初動5年間を「農業構造転換集中対策期間」と定め、農業構造転換に向け、各施策を集中的に講じ

るとしています。JAグループ青森では、食料安全保障の確保や農家組合員の皆様が将来展望をもって営農を継続できる環境の整備に向け、現場の声を第一とし、引き続き取組みを進めてまいります。

そのためにも、「令和の米騒動」などを契機に国民的議論となった「適正価格」については、昨年成立了生産コストを考慮した価格形成を目指す「食料システム法」の実効性を注視するとともに、米のみならず、野菜や果樹、酪農や畜産と幅広い分野において、生産者と消費者の双方が納得できる価格を実現できるよう全国のJAと連携した運動を展開するとともに、「国消国産」運動を通じ、消費者理解の醸成を図ってまいります。

また、気候変動による高温障害や害虫被害、渇水、大雪による被害の発生に加え、昨年はクマやイノシシ、鹿などの鳥獣被害が多発したことから、JAグループ青森では昨年8月に「JAグループ青森 令和7年度野生鳥獣被害対策本部」を設置し、被害状況の把握や行政への要請活動を実施しているところです。引き続き、現場の不安を払拭し、本県農業の持続的発展と地域の安全・安心のため、早急かつ強力な対策を国や地方公共団体に求めるとともに、連携した取組みを進めています。

さらに国に対し、令和9年以降の「新たな水田・畑作政策」の見直しにあたっては、将来にわたり生産基盤の維持や安心して食料を供給できる環境を整備することで、農家組合員の皆様が希望持てる政策となるよう求めるとともに、農地の受け皿となる担い手確保・育成等の経営基盤強化、あわせて生産資材価格高騰影響緩和対策や物流効率化への対応について求めてまいります。

このように、農業・JAを取り巻く環境は、年々厳しさを増しておりますが、農家組合員の皆様や地域住民の方々のため、JAグループの存在意義である「協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かなくらしと活力ある地域社会を実現する」ことを目指し、第30回JA青森県大会で決議しました4つの重点目標「食料・農業基盤の確立と担い手支援」、「農政活動の強化と豊かなくらしの実現」、「組織・経営基盤の強化」、「農業・JAに対する理解・共感の醸成」について、実践2年度目である今年も着実に取組みを進めてまいります。

特に、JAグループ青森が一体となり、施設の共同利用等によるメリットの最大化、経営資源の集約化、また、組織の効率化に向けた組織再編や将来的な合併を見据えた構想を次回大会へ提案する準備については、重点的に進めることとしております。

今年も引き続き、農家組合員の皆様や地域住民の方々、またJA役職員の皆様のご理解とご協力をお願い申しあげますとともに、今年が本県農業、JA、皆様にとりまして、「疾風のごとく駆ける馬」のように、飛躍の年となりますことをご祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。

# J A組合長・常勤役員および 中央会・連合会代表者等紹介

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を  
心よりお祈り申し上げます。

J Aグループ青森

## ●青森地区

### J A青森



しら ない かつ ゆき  
鹿 内 克 之  
代表理事組合長



ふく し こう き 樹  
福 士 幸 樹  
代表理事専務  
(経済担当)



あい さか かず なり  
相 坂 一 成  
代表理事常務  
(信用担当)



なり た しん いち  
成 田 真 一  
常勤監事  
(員外監事)



## ●五所川原地区

### J Aつがるにしきた



やま なか みつ はる  
山 中 満 春  
代表理事組合長



なり た はる みつ  
成 田 春 光  
代表理事専務



お の しん ご  
小 野 信 吾  
代表理事常務  
(信用担当)

### J Aつがるにしきた



かな ざわ さかえ 榮  
金 澤 榮  
代表理事常務



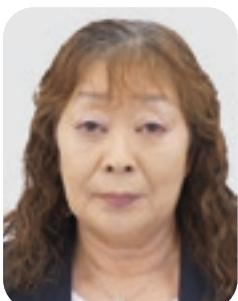
き 木 ま さ ひ ろ 祥  
木 村 正 祥  
常勤監事  
(員外監事)



やま もと やす き  
山 本 康 樹  
代表理事組合長



く と どう りょう じ  
工 藤 良 二  
代表理事専務  
(総務担当)



き むら や さ こ  
木 村 や さ こ  
常務理事  
(信用担当)

### J Aごしょつがる



かな ざわ さかえ 榮  
金 澤 榮  
代表理事常務



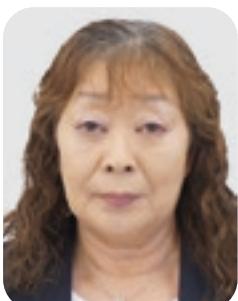
き 木 ま さ ひ ろ 祥  
木 村 正 祥  
常勤監事  
(員外監事)



やま もと やす き  
山 本 康 樹  
代表理事組合長



く と どう りょう じ  
工 藤 良 二  
代表理事専務  
(総務担当)



き むら や さ こ  
木 村 や さ こ  
常務理事  
(信用担当)

## J A ごしょつがる



葛 西 光 昭  
常務理事  
(経済担当)



神 康 仁  
常勤監事  
(員外監事)

## 弘前地区



天 内 正 博  
代表理事組合長



太 田 俊 逸  
代表理事専務

## J A つがる弘前



丸 岡 義 昭  
代表理事常務



幸 山 昌 章  
信用担当常務



中 田 拓 彦  
常勤監事  
(員外監事)



大 場 勉  
代表理事組合長



三 上 隆 基  
専務理事

## J A 相馬村

## J A 津軽みらい



山 内 利 彦  
理事金融共済部長



奈 良 寧  
代表理事組合長



村 上 勝 憲  
代表理事専務  
(総務管理担当)



山 口 貴 佳  
代表理事常務  
(販売担当)



吹 田 定 義  
代表理事常務  
(営農購買担当)

## J A 津軽みらい

## J A 常盤村養鶏



つ る 川 博 征  
代表理事常務  
(信用担当専任)



一 戸 誠  
常勤監事  
(員外監事)



石 澤 清 行  
代表理事組合長



能 登 谷 知 剛  
専務理事



# ●十和田地区

## J A十和田おいらせ



畠山 一男  
代表理事組合長



とざわ澤 康広  
代表理事専務



小向 豊  
常務理事  
(営農経済担当)



馬場 聰美  
常務理事  
(信用事業担当専任)

## J A十和田おいらせ



高村 司  
常勤監事  
(員外監事)



天間 一博  
代表理事組合長



村山 淳一  
代表理事専務  
(営農経済担当兼務)



原子 孝  
代表理事常務  
(金融共済担当)



野田頭 和義  
代表理事常務  
(酪農畜産担当)

## J Aゆうき青森

## J Aおいらせ



なり成 田 高  
常勤監事  
(員外監事)



中屋敷 一夫  
代表理事組合長



今出川 弘  
代表理事専務



小比類巻 正志  
常務理事  
(信用担当)



すみ角 石二郎  
常勤監事  
(員外監事)

# ●八戸地区

## J A八戸



若林 政秀  
代表理事組合長



木村 照男  
代表理事専務



かな金 澤幹雄  
代表理事常務  
(営農経済担当)



下村 正男  
代表理事常務  
(信用専任)

## J A八戸



なか さわ ゆたか  
中澤 裕  
常勤監事  
(員外監事)

## ●中央会・連合会

## J A青森中央会



おと べつ てる お  
乙部 輝雄  
代表理事長



あま ない まさ ひろ  
天内 正博  
副会長理事



の 野 ろ ふみ と  
呂文 と人  
常務理事



## J A全農あおもり



なり た とも ひろ  
成田 具洋  
県本部長



ささ しの とし みつ  
篠森 俊充  
副本部長



おさ ない さとる  
長内 晓  
副本部長



か さい しん じ  
葛西 真司  
本部長



ふく だ みつ あき  
福田 光明  
副本部長

## J A共済連青森

## J Aアオレン



お がわら やす ひこ  
小笠原 康彦  
代表理事長



か さい みち ゆき  
葛西 亨之  
参事

## (株)青森県農協電算センター



かま た まさ ゆき  
鎌田 政行  
取締役センター長



く どう のり あき  
工藤 憲明  
副センター長



# 野菜特集

## 品質管理の徹底 行者菜目揃い会 (5/16) おいらせ

やさい推進委員会六戸地区予冷野菜部会は、行者菜（ぎょうじやな）の目揃い会を開いた。行者菜は行者にんにくとニラを交配した新しい野菜で、平成25年から栽培を開始している。

生産者で構成する「ろくのへ行者菜研究会」の荒井潔会長は「徐々に認知され始めているので出荷数を増やしていく、行者菜を絶やさずにつなげていきたい」と話した。

八戸中央青果株式会社の三浦敬課長代理は「需要が増加しているので、生産者の皆様の出荷を期待している。行者菜は食べた時の香りが魅力であるため、品質管理の徹底をお願いしたい」と話し、生育や出荷時の品質管理について確認した。



目揃い会に参加する生産者たち

## ピーマン集荷始まる (7/3) つがる弘前

管内5か所の施設で、ピーマンの集荷を開始した。ピーマンは、リンゴ作業の農閑期に収穫が可能であることや、リンゴ栽培における作業員の継続雇用などの観点から、複合経営として取り組みを推進している園芸作物の一つだ。平成30年から共同選果を開始し、生産者の選果にかかる手間が省けるようになったことで部会員は年々増加し、今年度の会員は150人。販売額は、令和5年に初めて2億円を突破し、昨年は2億6,000万円となった。

7月3日時点で、令和7年は前年産の出荷数量よりも31トン上回る490トンの出荷を計画している。



ピーマンの入庫作業を行う作業員

## スイカお披露目 (7/7) つがるにしきた

つがる白神やさい・果実部会のスイカ班は、鰺ヶ沢町の鳴沢りんごセンターで目揃い会を開いた。生産者や市場関係者ら約50人が令和7年産スイカの出来栄えを確認した。

令和7年4月は降雨が多く、定植は例年より3から5日程遅れが生じた。定植後は地温が上がり生産が緩慢となり、一部で玉伸びにばらつきが見られたが登熟は順調に進んでいる。小玉スイカは6月23日から、大玉スイカは7月7日から入庫を開始した。

この日センターに持ち込まれたのは、今昭人さんが雨除けトンネルで栽培した「羅皇Z」の大玉スイカ約120玉。同班の今隆光班長が、スイカの表面を1つ1つたたき、音や振動、感触で3つの等級に選別した。

同班の令和7年の生産者は15人で、作付面積は28.4ha。販売金額は2億1,975万円を目指している。

今班長は「品質には自信がある。今後も管理を徹底して、みなさんにおいしいスイカを届けたい」と話した。



スイカをたたいて選別する  
今隆光班長 (右)

## ミニトマト1日あたり約14トン入庫 (8/6) 津軽みらい

管内では、7月下旬にミニトマトの出荷が最盛期を迎えた。平賀園芸センターでは1日あたりの入庫数量が約14トンとなり、8月上旬まで続いた。

同センターでは、生産者が個人選別したミニトマトのパック詰め（1パック200g）や3kgバラ詰めを、京浜市場を中心に14ヶ所の市場へ出荷している。販売を担当する職員は「近年、農業生産に必要なランニングコストが軒並み上昇しており、採算性の悪化から生産意欲の低下が懸念されている。当JAのミニトマトの品質の良さが、各市場から高い評価をいただいていることを強みとし、コスト増分を価格転嫁できる適正な販売単価を確保することで、生産者の生産意欲向上に努めたい」と話した。

令和7年の同JA産ミニトマトの作付けは約16㌶で、生産者は145人。8月6日時点で、11月末までに約1,000㌧の出荷、販売金額8億円以上を目指し生産・出荷に勤しむ。



ミニトマトを運び込む生産者

## キュウリ査定会（9/5） 八戸

きゅうり専門部は、五戸町のJA川内予冷庫で、キュウリの査定会を行った。

あいさつで畠山賢寿専門部長は「全施設共通して規格が統一されているので、この査定会で役員の皆さんが高い品質を確認し、高値販売に繋げられるようにしよう」と述べた。

査定会では、各施設6ヶ所分の荷受したキュウリを持ち寄り、選果、選別方法が統一されているか確認し、適格に選別が行われていることを報告した。9月以降、病気や傷が増えてくることが予想されることから、各施設荷受の際には、生産者

へ気を付けるようにと呼びかけた。部会役員からは、生産者がより品質や規格をわかりやすくするために、出荷規格表の規格ごとの写真を増やしてほしいなどと要望があがった。



選別状況を確認する生産者ら

## 秋ダイコン収穫（10/21） 十和田おいらせ

ももいし支店、下田支店管内で、秋ダイコンの収穫が終盤を迎えた。高温の影響で若干の曲がりが見られるものの、品質は良好で、気温が下がるにつれて甘みが増している。収穫は11月上旬まで続き、令和7年産のシーズン取扱高11億5,900万円を目指す。

同地区のダイコン栽培は3月中旬のトンネル栽培から始まる。気温が上がるごとに、不織布、マルチビニール、露地栽培と8月下旬まで播種作業が続くことで、5月下旬から長期間に渡った出荷が実現する。

令和7年産は高温や干ばつの影響で、7月に播種したダイコンは発芽不良やバラつきなどが見られ、3分の1が廃棄処分となった圃場もあった。その後は、適度な降雨があったことで作柄は安定し、現在は規格の揃いが良く品質の良い仕上がりになっている。

おいらせ町の吉田琢也さんは父の良紀さんや従



収穫を盛んに行っている吉田さんの圃場

業員13人で、25haを栽培する。近年は天候不順による作柄不良に悩まされながらも、品種の選定や管理、選別などの徹底で、高品質出荷につなげ市場から絶大的な信頼を得ている。

吉田さんは「気温が下がることでグッと甘みが増して果物のようになる。今が一番おいしい時季なので、生サラダや煮物、炒めものなどで味わってほしい」と自信をみせる。

### 葉つきこかぶ収穫体験

ゆうき青森青年部

(10/24)

ゆうき青森

JAゆうき青森野辺地地区青年部は、野辺地町の野辺地小学校と若葉小学校を訪れ、3年生を対象に「野辺地葉つきこかぶ」の収穫体験を行った。児童らは、播種から育てたカブが大きく成長したことを喜びながら収穫を楽しんだ。

この体験は同JAが合併する前から毎年実施している。今年は両校の3年生計71人が体験した。9月上旬に実施した播種も同青年部と協力して取り組んだ。収穫までの栽培管理は学校ごとに児童自ら行い、収穫を心待ちにしていた。

一玉ずつ手作業で収穫し、実際の出荷作業のように水を張ったプールでカブを洗浄。児童は、大きく育った真っ白なカブに満足気な様子で「たくさん採れてうれしい。サラダにして食べたい」と語った。

指導を行ってきた同青年部の鳴海拓哉地区長は、「この活動を通して、食の大切さを学んでくれたらうれしい」と語った。



収穫した葉つきこかぶを洗う野辺地小学校児童ら



### ネギ収穫終盤 150トンを見込む (11/21) ごしおつがる

11月下旬にネギの収穫が終盤に入った。定植時期の長雨と夏場の干ばつで栽培管理に苦労したが、生産者の丁寧な栽培管理により、品質は例年並みに保たれた。11月時点で総出荷数量は150トンを見込んでいる。

つがる市木造で30㌃を作付けする高橋佳子さんは、夫の伸人さん、息子の甲斐さんと家族3人で収穫・出荷作業のラストスパートに臨む。9月上旬に収穫を開始し、稲刈りをはさみながら作業を続けてきたが、天候の影響により作業はやや遅れぎみとなっている。現在も1日に1~2回収穫し、伸人さんが根・葉切り、佳子さんがエアーで皮を吹き飛ばし、甲斐さんが等級ごとに箱詰めする流れで、1日約50箱を仕上げている。

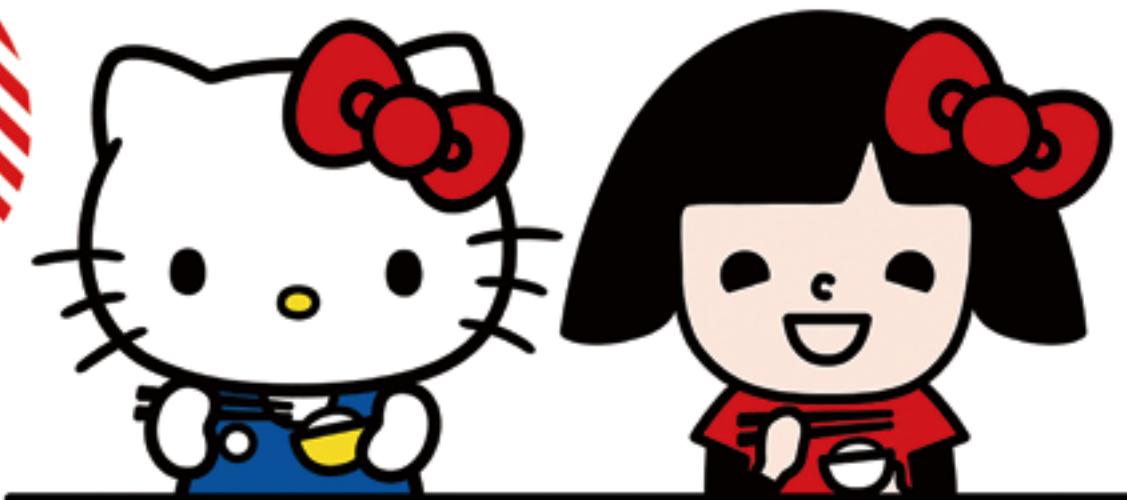
伸人さんは「天候を気にしながらの作業が続くが、最後まで気を抜かずに作業したい」と話した。



ネギの出荷作業を行う伸人さん



# 今年も いつしょに、 こく しょう こく さん 国消国産！



あけましておめでとうございます。

私たちJAグループは今年も「国消国産」に取り組んでまいります。

「国消国産」は、「私たちの国で消費する食べものは、

できるだけこの国で生産する」という考え方です。

子どもたちの世代に「食」の安心をつなげていくために。

いっしょに「国消国産」を進めていきましょう。

新しい年が、皆さんにとって

実り豊かな一年になりますように！

**美味ちゃん × HELLO KITTY**

© みんなのよい食プロジェクト

© 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L660539



国消国産  
こくしょうこくさん

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

# フラッシュ

## J A 青森



### 丹精込めて育てあげたりんご即売会（11／29、30）

J A青森りんご部りんご販売課は、J A青森羽白野菜集出荷施設内で、りんごの即売会を開催した。収穫を終えたばかりの青森市浪岡産のサンふじや王林などを贈答用で販売したほかに、お得な家庭用、お持ち帰り用りんご品種も販売。両日とも朝早くから多くのお客さまが来場し、吟味しながらりんごを買い求めていた。



### つがるメロン協議会販売報告会

#### 目標金額5億円達成（12／9）

J AごしょつがるとJ Aつがるにしきたで構成されるつがるメロン協議会は、令和7年産メロンの販売実績を販売報告会で報告した。出荷数量は14万7,436箱で、目標の15万箱には届かなかつたが、販売金額が5億4,436万円と、目標の5億円を上回つた。

同会会長を務めるJ Aごしょつがるの山本康樹組合長は「目標達成は生産者の協力のおかげ」と挨拶し、同J A担当者は「産地維持のため、積極的な仲間づくりに努めよう」と呼びかけた。

### 相馬小学校「お米ができるまで」の授業完結（12／10）

弘前市立相馬小学校は、社会科授業の一環として「お米ができるまで」という学習を実施した。本学習の最終日に同校5年生の児童が、本県産米主要3品種を食べ比べし、普段できない体験に目を輝かせた。

本学習は春のJ A育苗施設見学から始まり、田植え、稻刈り、調理実習と続き今回で完結。協力した女性部の田澤真由美部長は「今後もこの学習を続けていきたい」と意気込みを語った。



## J Aつがるにしきた

### ヨガで笑いを（12／3）

つがる市柏ハーモニー未来館で「女性部交流会」を開いた。会では健康講座が行われ、青森笑いヨガハッピーハイの下山美栄子会長を講師に招き、笑いと深呼吸を組み合わせた健康体操「ラフターヨガ（笑いヨガ）」を実践した。参加者は笑い声を響かせながら、心身のリフレッシュを図つた。

その後も女性部員による和踊りやカラオケが披露され、会場は終始笑顔と活気に包まれた。



## J Aつがる弘前

### 「初音ミク」らと共にJ Aつがる弘前りんごをPR（11／27）

昨年に引き続き、バーチャルシンガー「初音ミク」とりんごがコラボしたデザインのポスターと贈答用りんごの化粧箱を制作した。天内正博組合長らは弘前市役所を訪れ、桜田宏市長に完成したコラボ化粧箱などをお披露目した。

贈答用りんご3kgが入った新たな化粧箱の販売は、同J Aと弘前観光コンベンション協会のECサイトで令和7年12月1日より予約受付しており、令和8年1月から順次発送する。また、弘前市ふるさと納税返礼品でも提供する。



## J A相馬村

JA津軽みらい



地域の祭りでリンゴ販売 (11/22、23)

JA津軽みらいの黒石青果センターは、黒石市の「第34回黒石りんごまつり」においてJA管内で栽培されたリンゴの魅力を伝えることを目的として、職員が対面販売を行った。

多くの来場者がリンゴを購入し、2日間で贈答用、特選品、家庭用合わせて600箱を販売した。

来場者は「JAのリンゴはおいしいので、毎年買うのを楽しみにしている。家族と一緒に食べたい」と話した。

JAゆうき青森



東京の小学生からカブの絵届く (11/18)

東京都の池袋本町小学校3年生の児童らが描いたJAの特産品「野辺地葉つきこかぶ」の絵と「おいしく作ってくれてありがとう」という手紙が届いた。

同校で図工を教えている瀧田久里子さんによると、野菜を模写する授業を行っており、今回は野辺地町の「葉つきこかぶ」が選ばれた。

絵を受け取った村山淳一専務は『役職員一同うれしく拝見した。今後も「野辺地葉つきこかぶ」の生産に、より一層力を尽くしていく』と感謝を述べた。

JA十和田おいらせ



子牛管理共進会 (12/5)

JA十和田おいらせと十和田市黒毛和種改良組合は、三木木畜産農協事務所で子牛管理共進会を開いた。審査の結果、白山雄治郎さんが雌牛の部、去勢牛の部ともにチャンピオン賞に輝いた。

同共進会は飼養管理技術の向上と優良な雌牛を地元に残す保留牛の選抜を目的に年4回開いている。

白山さんは「休まず管理に努めてきた成果が出た。飼育管理を改良しながら、選ばれ続ける牛生産をしていきたい」と意欲をみせた。

JAおいらせ



しめ飾り教室を開催 (12/3)

女性部は、本支店でしめ飾り教室を開いた。花バレットの岩原綾講師の指導のもと、女性部員らは稻穂や花を持ち寄り思い思いに作品を作成した。

今回のしめ飾り教室で作った作品は、アーティフィシャルフラワーのしめ飾りで、新年を司る年神様を祭るのにふさわしい神聖な場所だということを示すもので、不浄なものが入らないようにするために作られたことが由来。部員らは、グルーガンを使って飾りをくっつけて作品を仕上げた。

JA八戸



八菜館収穫祭 (11/15、16)

JA八戸アグリマーケット八菜館友の会は、八菜館収穫祭を開いた。

店内では葉物野菜、リンゴなどを販売。店外ではテントを設置し、ダイコンやハクサイ、赤カブなどの漬物用の野菜が人気を集めた。また、(株)ばるじゃサービスの社員が焼き鳥や串もちなどを販売し、来場者はおやつや家族へのお土産として購入していた。

来場者は「漬物用の野菜が購入できるので、毎年来ている。今年も立派な野菜が並んでおり良かった」と話した。

**県農協生活指導員 JAあつぎへ視察研修**

県農協生活指導員連絡協議会は11月12日から13日にかけて、神奈川県厚木市のJAあつぎで視察研修を行った。同協議会の会員10人が参加した。

研修の目的は、JAあつぎが実施している「ふるさと先生」や「食とくらしマイスター」制度など、地域農業の理解と地域づくりの先進的な取り組みについて学び、本県生活指導員の資質向上を目指す。同協議会はJAあつぎ本所のクッキングスタジオやファーマーズマーケット「夢未市」を見学した。

クッキングスタジオでは、食とくらしのマイスター「サザ工会」による料理講座を実施。家の光料理コンテストで優秀賞に輝いた「こりこりパリパリにぎやか丼」やJAあつぎオリジナル商品「厚木産蒸し大豆」を使用した料理を作った。食肉をほぼ使わずに、大豆で代用。ヘルシーでありながら焼肉のたれを使い食べ応えのある料理に仕立てた。

ファーマーズマーケット「夢未市」では、同店の清田陽平店長が夢未市での取り組みや概要を説明したのち、店舗に向かった。同協議会員は店内のレイアウトやポップづくりなどを見て、参考になりそうな部分を探した。同協議会員は「とても勉強になった。実際には難しいかもしれないが、自分のJAでも取り入れたい」と話した。今後、各JAで前向きに検討をする。

また、梅体験専門店「蝶矢」で梅シロップ・梅酒作りにも挑戦。100通りの組み合せから自分だけの梅シロップ・梅酒作りの体験を通じて、日本の梅文化や全国各地で栽培される梅の特徴、加工方法について学んだ。



▲クッキングスタジオでJAあつぎのサザ工会のメンバー（左）から料理を教わる同協議会員（右）

**全農あおもりフェスに出展**

JA青森中央会は11月15日、全農あおもりが主催する「全農あおもりフェス」にブースを出展した。

中央会では「国消国産！」をテーマに、押し花のように乾燥させた「押し野菜・果実」を使ったハーバリウムを作成できるワークショップを実施。約100人が参加し、野菜やラメ剤の組み合わせを楽しみながら作業をした。同イベントは午前10時から開始したが、昼頃には予定数に達した。また、来場者にハローキティと笑味（えみ）ちゃんが描かれた国消国産のチラシや持続可能な開発目標（SDGs）など、JAの取り組みを紹介するパンフレットなどを配布。家の光やちゃぐりんなどの雑誌も紹介し、国消国産運動、食農教育をPRした。

同イベントに同じく出店した県農協青年部協議会は青果物を販売したほか、アンケートを実施。「青森県産の農産物を選ぶ理由は？」という質問に対し、回答者は「おいしいから」、「地元の産業を応援したいから」との声が多くあがった。県JA女性組織協議会は青果物や加工品を販売。イベント開始1時間でキャベツ20袋、ハクサイ60玉が売り切れ、大盛況に終わった。



▲ハローキティ×笑味（えみ）ちゃんパンフレットを配布し、国消国産をPRする中央会職員

**国消国産マルシェ 2025を開催**

JA青森中央会は11月22日、青森市のカクヒigroupグループスーパーアリーナのヨリドマで「国消国産マルシェ 2025」を開催した。県内JAの農産物販売のほか、連合会や家の光協会などがPRブースを設け、JAの取り組みをアピールした。

同会場では初開催となる。寒空の中、約1,200人が来場し、大いに盛り上がった。

本イベントは「国消国産」をキーメッセージとし、県産・国産農畜産物の選択と旬の食材の購買等のきっかけづくりとして開催。ハローキティと笑み（えみ）ちゃんが描かれた国消国産のチラシやクリアファイルを配布し、国産の農畜産物の購入を呼び掛けた。中央会の野呂文人常務は「本日のマルシェでは、本県の旬の農産物をはじめ、加工品や畜産物など、県産品を多数取り揃えております。また、地元産の農畜産物をご購入いただくことが、生産者の励みとなります。国消国産運動へのご理解とご協力を、改めてお願い申しあげます」とあいさつした。

販売ブースでは県内のJAが旬の農畜産物や加工品などを取りそろえ、来場者に販売。リンゴやゼネラル・レクラーク、ニンニクの加工品が特に人気で、ごしょつがる農協青年部が販売したリン



▲国消国産の大切さを訴える野呂常務（左）



▲お米ぴったりチャレンジに挑戦する参加者

ゴは開始1時間で売り切れるほど盛況だった。

中央会では「お米ぴったりチャレンジ」を行った。1分間で米をくじで引いた重さになるように器に入れ、ぴったり、または誤差5パーセント以内のニアピンであれば景品が贈られる。約300人が真剣な表情で挑戦。残念ながらぴったり賞は出なかったが、残り5グラム以内でぴったりになる参加者も数人おり、子どもから年配の方まで白熱した展開となった。来場者は「いつもお米をといいでいるが、目分量ではやはり難しかった。息子も参加できる企画でとても楽しめた」と笑顔で話した。

このほか、キッチンカーによる食品販売、先着300組の来場者に卵1パックをプレゼントするなどさまざまな催しが行われた。

### 第50回青森県JA青年大会を開催

県農協青年部協議会は12月5日、県農協会館で「第50回青森県JA青年大会」を開催した。県内JAの青年部員57人が参加。

同大会では、「令和7年度JA青年の主張発表大会および青年組織活動実績発表大会」を実施。青年の主張発表では「地域の農業を守りたい」と題し、生産者の高齢化や後継者問題について発表した長内光史さん（津軽みらい農協）が最優秀賞を受賞。「遠くない未来、地区の農家が何件残っているか考えると怖い」と危機感を強く訴え、地域の仲間や青年部員が一致結束して、先輩農家が守ってきた農地を守り続けたいと語った。青年組織活動実績発表では「青年部活動で部員を増加するには？これまでの取り組みと今後の方向性」について発表した 笹大樹さん（JAつがる弘前）が最優秀賞を受賞。部員確保のため、青年部本部の活動に対する若い世代の認知度を高め、「楽しそうだから入ってみたい」と思わせる空気感をつくり、活気のある青年部にしたいと熱い思いを述べた。

両名は令和8年1月に山形県鶴岡市で行われる「令和7年度東北・北海道ブロックJA青年大会」で青森県代表として発表する。

また、「令和7年度手づくり看板コンクール」の表彰も実施。入賞作品は全国コンクールに推薦する。各発表・コンクールの受賞者は以下のとおり。

- ◇JA青年の主張発表▷最優秀賞＝長内光史（津軽みらい農協）▷優秀賞＝三浦義博（JA八戸）
- ◇青年組織活動実績発表▷最優秀賞＝ 笹大樹

(JAつがる弘前) ▷優秀賞=高村篤史  
(JAゆうき青森)  
◇手づくり看板コンクール▷最優秀賞=JA十  
和田おいらせ十和田湖支部▷優秀賞=JA十  
和田おいらせ藤坂支部、JAごしょつがる  
基調講演では、JAしば東葛の荒木大輔理事を  
招き「地域農業を支える制度と仕組みの理解と活  
用」と題した講演を実施。千葉県野田市での農業  
の取り組みを事例とし、地域農家間の経営戦略の  
立て方や補助金の活用について学んだ。



▲最優秀賞の長内さん（左）と笹さん（右）



▲発表者と県青協役員

### 令和7年度青森県家の光大会を開催

JA青森中央会と県JA女性組織協議会は12月  
9日、県農協会館で「令和7年度青森県家の光大  
会」を開いた。県内10JAから約140人が参加。  
記事活用体験発表大会では3人の地区代表が発表  
し、JAごしょつがる林支部の木村孝子さんが最  
優秀賞を獲得した。

木村さんは「地域と女性を輝かせる家の光の未  
来」と題し、JAと福祉施設が開催する「ノウフ  
クマルシェ」の活動について発表。仲間と一緒に  
取り組む大切さや、活動を通して地域を元気にし  
たいと意気込みを語った。審査委員長を務めた家  
の光協会普及文化本部東日本普及文化局の魚谷昌  
宏局長は「活動への意欲や、地域を明るくしてい  
るというメッセージがしっかりと伝わった。自分も

一緒に仲間と成長し、楽しみながら活動している  
点も良かった」と講評した。木村さんは令和8年  
2月に福岡市で開催される第67回全国家の光大会  
で青森県代表として発表する。

優秀賞はJA津軽みらい常盤支部の佐藤秀子さ  
んとJA八戸五戸支部の畠中とわさんが受賞し  
た。

このほか、家の光高率普及優良JAなど各種表  
彰や映画「九十歳。何がめでたい」を鑑賞した。

表彰JAは次のとおり。

▷「家の光」高率普及優良JA表彰=JA相馬村、  
JAおいらせ、JA八戸▷「家の光」12月号普及  
優良JA表彰=JA津軽みらい、JA十和田おいら  
せ、JAゆうき青森、JAおいらせ▷「ちゃぐ  
りん」8月号普及優良JA表彰=JA青森、JA  
つがる弘前、JA相馬村、JA津軽みらい、JA  
十和田おいらせ、JAゆうき青森、JAおいらせ  
▷「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰（女性  
部特別表彰）=JA津軽みらい▷「家の光三誌」  
普及・活用優良団体表彰（女性部表彰）=JA  
青森、JAつがるにしきた、JAごしょつがる、  
JAつがる弘前、JA相馬村、JA十和田おいら  
せ、JAゆうき青森、JAおいらせ、JA八戸▷「家の  
光三誌」普及・活用優良団体表彰（青年部表彰）  
=JA十和田おいらせ



▲最優秀賞を獲得した木村さん（中央）



▲記事活用体験発表をする木村さん

### I Y C 2025青森県記念集会開催

2025国際協同組合年青森県実行委員会は12月11

日、青森市のリンクステーションホール青森で2025国際協同組合年（IYC2025）青森県記念集会を開催した。同委員会に所属する5団体の役職員ら約150人が参加。「協同の力による課題解決」や「SDGsへの貢献」について理解を深めることを目的に基調講演とグループディスカッションを実施した。

同委員会の乙部輝雄委員長（JA青森中央会会長）は「青森県でも7月に実行委員会を設置し、お互いに連携することを確認した。今後も更なる発展をしたく、今まで以上に関係機関、協同組合組織が連携を深めていきたい」とあいさつをした。

基調講演では日本協同組合連携機構（JCA）の伊藤治郎常務が「協同組合が築いていく持続可能な社会」と題し協同組合のアイデンティティや、地域における協同組合の可能性、協同組合間連携について講話。他県でのIYC2025の取り組み事例や現代社会における協同組合の存在意義について話した。

その後、グループディスカッションを実施。各団体の職員らが講演の感想や日頃の活動状況を報



▲基調講演をする伊藤常務



▲基調講演を聞く参加者



▲グループディスカッションをする5団体の役職員ら

告し、時より談笑を交えながら交流を深めた。

集会の最後には青森県記念集会アピールの採択を実施。IYC2025を契機に協同組合の意義を次世代へつなぎ、未来に希望をもてる社会の実現を目指して行動していくことを宣言した。

### 令和7年度次世代リーダー育成研修会修了レポート発表会

J A青森中央会は12月12日、県農協会館で「令和7年度次世代リーダー育成研修会修了レポート発表会」を開催した。

本研修は次世代を担う中核的な職員を対象に、JA全体の経営や事業、戦略などにおいてマネジメントできる人材を育成することを目的に令和7年5月からスタート。当日は研修の成果発表として、5名の県内JA職員が自らのJAに対する改革、提案についてプレゼンテーションを行った。

開会にあたりJA青森中央会の野呂文人常務は「研修会で学んだ知識を活かしながら、自身の考えを存分にアピールしてほしい」と発表者を励ました。

審査委員長に青森公立大学の生田泰亮准教授を招き5名の発表を審査。結果、最優秀賞は葛西恭子さん（JA津軽みらい）が、優秀賞は鈴木啓太さん（JAつがるにしきた）、佐藤孝也さん（JAつがる弘前）がそれぞれ選ばれた。

葛西さんは「働きがいのあるJAを目指して～みらいを描ける職場環境づくり～」と題し、人事考課の面から戦略を提案。職員の仕事に対するモチベーションの低下や離職率を抑えるための所属長や課長との定期的な面談の実施、将来なりたい職員像や目標を書く「みらいノート」の作成を提起した。最優秀賞に輝いた葛西さんは令和8年2月20日にJA全中で開催される「第16回JA戦略型中核人材育成研修全国研究発表会」で県代表として発表する。



▲最優秀賞を受賞した葛西さん（中央）

## 第44回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式開催

J A 青森中央会は12月13日、青森市のホテル青森で第44回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開催した。作文部門では寺沢賢青さん（十和田市立三本木中学校2年）の「米一粒、汗一粒」が、図画部門では中居凜鳳さん（八戸市立是川小学校6年）の「播種機の手伝いをしたよ」が最高賞の青森県知事賞に輝いた。

本コンクールはお米やご飯を食べる大切さを、小・中学生に理解してもらうことを目的に実施している。令和7年度は作文部門297点、図画部門146点の応募があった。

式では寺沢さんが受賞した作文を朗読。「受賞



▲作文を朗読する寺沢さん



▲作品を説明する中居さん



▲入賞された皆さん

はびっくりしたけど、一番良い賞で嬉しかった。作文を作りながら、お米は大切だと改めて感じた」とコメントした。中居さんは「工夫した点は、播種機をリアルに描いたこと。種もみひとつひとつを丁寧に描いた点が大変だった。」と作品について説明した。また、式に審査委員を招き、各作品の講評もいただいた。

その他の入賞者は次のとおり。

◇青森県教育委員会教育長賞▷作文部門=工藤芽依奈（青森市立合浦小学校1年）▷図画部門=矢本凌久（青森市立造道小学校1年）

◇青森県農協中央会会長賞▷作文部門=工藤愛理（青森市立合浦小学校6年）▷図画部門=濱田明來（青森市立浪打中学校2年）

◇学校奨励賞▷作文部門=十和田市立三本木中学校、青森市立合浦小学校▷図画部門=八戸市立是川小学校、青森市立造道小学校、青森市立浪打中学校

### 行事（1/10～2/10）

#### 1月

- 14～15日 監督者研修会2（県農協会館）
- 14日 県参協定例会（県農協会館）
- 14日 東北・北海道地区情報システム担当部課長会議（アップルパレス青森）
- 15日 自己査定支援システム「引当金業務」研修会および資産査定担当部課長・担当者会議（県農協会館、WEB）
- 16日 認知症サポーター養成講座（県農協会館）
- 23日 営農指導員認証試験（県農協会館）
- 28～29日 初級職員研修会2（県農協会館）

#### 2月

- 2～3日 管理者研修会2（県農協会館）
- 5日 しゃかしゃかおむすび＆みそ玉づくり教室（中央文化保育園）
- 5日 県女性協第6回定例理事会（県農協会館）
- 9日 組織再編検討会議 専門部会【管理・津軽】（県農協会館）
- 10日 定例理事会（県農協会館）
- 10日 J A 総務管理担当常勤理事会議（アップルパレス青森）

**貸出システム研修の実施**

農林中央金庫青森支店は、10月から順次、各JAにて貸出システム研修を実施している。

JAバンクでは、組合員・利用者から必要とされる存在となり続ける姿を目指すため、全国共通的な貸出システムを構築・導入する。

貸出システムとは共通サブシステム、WEB受付サブシステム、電子契約サブシステム、融資稟議サブシステムから構成され、貸出業務のシステム化により、職員の負荷軽減や事務処理時間短縮の実現を目的としている。

本研修では、システム研修環境を用いて融資稟議サブシステムを操作しながら、本審査から実行までの流れを実践。

青森県では2026年2月より、融資稟議サブシステムの稼働と延滞債権管理サブシステムの本格利用が予定されている。



▲研修の様子

**第2回担い手コンサルティング勉強会の実施**

農林中央金庫青森支店では、11月25日に今年度第2回目となる担い手コンサルティング勉強会を実施した。9JAと全農あおもり、県中央会より21名が参加。

担い手コンサルティングとは、農業者の経営課題を可視化し、JA信用事業と営農・経済事業等と連携して、可能な限り他の地域金融機関とは異なる、総合事業体としてのJAならではの解決策を提案することで担い手の成長とJA総合事業の成長の両立を目指すもの。

第2回目勉強会では、課題解決に向けたソリューションの検討方法、ソリューションと実行計画のすり合わせの実施方法等について、座学とグループワーク形式を交え実施した。

2026年2月には担い手コンサルティング報告会の開催を予定しており、今年度の取組内容について共有することとしている。



▲勉強会の様子

**行事（1/10～2/10）****農林中央金庫**

- 1月
- 13日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
  - 20日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
  - 23日 延滞債権管理サブシステム県域説明会（\*）
  - 27日 第3回証券外務員・内部管理責任者資格試験（県農協会館）

**2月**

- 6日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 7日 第58回信用事業業務検定（県農協会館）

**農協電算センター**

- 2月
- 10日 定時取締役会（県農協会館）

（\*）はウェブ会議

**「青森フェア in 鹿児島」の開催**

J A全農あおもりは6日・7日の2日間、鹿児島市のおいどん市場与次郎館で、青森県産品の販促イベント「青森フェア in 鹿児島」を開いた。J A鹿児島県経済連とのコラボフェアは8回目。

同フェアではリンゴ、ニンニク、ナガイモ、精米など県産農産物やその加工品を41品目販売したほか、県産米を使用したおにぎりや、せんべい汁など調理販売も行った。そのほかブランド米「青天の霹靂」やりんご、ジュースの試食・試飲を実施し、来場者に県産品の魅力をPRした。

全農あおもり運営委員会の乙部輝雄会長は「このフェアは、鹿児島と青森の魅力ある農畜産物を知ってもらい、食べてもらうことを目的に令和3年から開催している。青森の自慢の農産物を産地から直送でお持ちしたのでフェアを楽しんでほしい」と開会のあいさつを行った。



▲県産りんごを選ぶ来場客

**系統農薬事業推進会議の開催**

J A全農あおもりは12月18日、青森市の県農協会館で「系統農薬事業推進会議」を開き、農薬メーカー担当者らが出席。令和8年度における農薬取扱要領について共有し、系統農薬の安定供給に向け協力を求めた。

令和7年度の取り組みとして、担い手直送規格・低コスト剤の普及拡大、生産コストの圧縮にくわえ、新たに全農原体殺虫剤や高温対策資材、バイオスティミュラント等の普及拡大に努めることとした。

全農あおもりの成田具洋県本部長は「農薬価格が前年に続き値上げとなり、厳しい状況が続いているが、防除暦にもとづいた予約積上げによる安定供給と系統基幹品目の普及推進による取扱拡大

に努めていく。」と話した。

この他、営農情勢についても共有をした。



▲あいさつする成田県本部長

**「第20回農林水産物歳末市」の開催**

J A全農あおもりは12月26日、第20回目となる農林水産物歳末市を青森市の県農協会館で開いた。

県産のりんごや洋なし、精米、ながいも、ごぼう、にんにくやあおもり和牛、りんごジュースなどをお買い得価格で販売した。

その他、なまこ等の水産物や切り花、J A青森女性部の切り餅なども販売した。

また、家族みんなで来場して欲しいという願いを込め、お米大使とゲームができるちびっ子コーナーを設置。多くの家族連れで賑わい、「お米大使に会えて嬉しい」と喜ぶ子どもたちが多くいた。来場者先着300名を対象とした抽選会も実施し、楽しめるイベントに。

歳末市は、県産農畜産物の消費拡大と地域貢献を目的に毎年年末に開いているもの。



▲ごぼうを購入する来場客

**行事 (1/10~2/10)****2月**

10日

運営委員会 (農協会館)

**令和7年度 JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスタークンクール展示会の開催**

JA共済連青森は11月8・9日、青森市CiiNA CiiNA青森（2階ホール）、15・16日、おいらせ町イオンモール下田（2階イオンホール）、22・23日、弘前市さくら野百貨店（4階エスカレーター前ホール）で、最優秀賞・特選・準特選受賞作品を展示した「令和7年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスタークンクール展示会」を開催した。

来場者からは「小・中学生が書いたとは思えないほど上手だ。」「来年はウチの子も賞を取れるように頑張らせたい。」などの声が聞かれた。



▲青森市CiiNA CiiNA青森の様子



▲おいらせ町イオンモール下田の様子



▲弘前市さくら野百貨店の様子

**令和7年度 青森県東方沖を震源とする地震発生について**

令和7年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震により被害を受けられた皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。また、JA共済に加入され被害を受けられた方におかれましては、ご加入先のJAまでご連絡・ご相談ください。

12月9日、JA共済連青森は災害時初期対応要領にもとづき青森県本部災害対策本部を設置した。

八戸市で震度6強、おいらせ町や階上町で震度6弱を観測し「北海道・三陸沖後発地震注意情報」も発表されたなかで、県内の建物被害棟は667棟（12/25現在）の受付となっている。災害対策本部により構築された損害調査体制では、県本部職員と全国本部鑑定人30名を動員し、各JAの共済担当者およびLAと連携しながら早期の損害調査を行い12月中での損害調査完了をめざし取組み、12月25日現在で88.6%の被害調査が完了している。

また、JA共済連が行っている災害救援活動の一環として、災害状況の拡大防止および復旧への支援を目的に「災害シート90枚」と「災害キット800セット」を、被災軒数が多いJAへ配付し、被害にあられた共済契約者へ無償配布した。

災害シート：6坪タイプのブルーシート（個包装）

災害キット：タオル（1枚）、軍手（1双）、マスク（2枚）が梱包



**行事（1/10～2/10）**

**1月**

9日 運営委員会（県農協会館）

**2月**

10日 運営委員会（県農協会館）

【特別企画】

# 2025年を振り返る

## 青森県の農業・JA主要ニュース



### ●冬に咲く桜 弘前市へ啓翁桜贈呈（1/21）

写真①

J Aつがる弘前の丸岡義昭常務と花き部会の山形正人部会長は、弘前市役所を訪れ、櫻田宏市長に啓翁桜を贈呈した。同部会は、市役所を訪れた市民に一足早い春を届けよう毎年贈呈している。

1月

### ●令和7年豪雪災害対策本部を設置（2/3） 写真②

J Aグループ青森は、記録的な豪雪によりリンゴの枝折れや幹折れなど、農作物の甚大な被害に対応するため、乙部輝雄中央会会長を本部長とする「令和7年豪雪災害対策本部」を設置した。

2月

### ●大雪被害支援 融雪剤を寄付（2/7） 写真③

J Aゆうき青森は、大雪による農業被害が多発している津軽地域の6JAに対し、早期に営農活動が開始できるよう、同JAで製造している木炭粉（1袋15kg）の融雪剤1,200袋を寄贈し、各JAに200袋ずつ配布した。

2月

### ●県農林水産委員会と県農協農政対策委員会との意見交換会（2/26）写真④

県農協農政対策委員会とJA青森中央会は、県庁で青森県農林水産委員会との意見交換会を開催し、豪雪被害対策や持続可能な農業・農村づくりに向けた対策等について、国や県に働きかけるよう要請した。

3月

### ●「鹿児島フェア in 青森」の開催（3/8・9） 写真⑤

J A全農あおもりは青森市の青森県観光物産館アスパムで、JA鹿児島県経済連とのコラボイベント「鹿児島フェア in 青森」を開催し、約60点の鹿児島県産農畜産物・加工品を販売したほか、青森県産農産物も販売し、双方特産品の認知度向上および消費拡大を促した。

### ●命と食学ぶ教材本 県教育委員会に寄付（3/24）写真⑥

J A青森中央会の野呂常務とJAバンク青森の桐原支店長が、青森市の県教育委員会を訪れ、小学5年生向け令和7年度版の教材本を寄贈した。教材本は「いのちはぐくむあお





3月

もりの農林水産業」と「農業とわたしたちのくらし」の2種類。

●青森県農協青年部協議会 通常総会を開催

(4/7) 写真⑦

県農協青年部協議会は、県農協会館で第72回通常総会を開き、令和6年度の活動報告や令和7年度の活動計画などを承認。生産基盤強化対策などの国内農業対策の確実な実施に向けた運動に取り組み、併せてSNSなどを活用し県青年部の情報発信を積極的に行う。

●第71回女性協通常総会 (4/23) 写真⑧

県JA女性組織協議会は、県農協会館で第71回通常総会を開いた。松橋会長理事は「農業を取り巻く環境は日々変化している。そのような中で主婦であり、母であり、農業に携わる私たち女性の存在、力はとても大きいと感じる。SNSを活用した情報発信にも積極的に取り組み、JA女性部の活動を広くPRしたいと抱負を述べた。

●令和7年度JA共済事業推進大会 (4/23)

写真⑨

J A共済連青森は、青森市のホテル青森にて、令和7年度JA共済事業推進大会を開催した。

開会にあたり、乙部運営委員会会長は『令和6年度は「ひと・いえ・くるま」の総合保障の確立に向け、全JA役職員による積極的な事業推進活動を展開していただいた』と感謝を述べた。

●豪雪被害状況の意見交換会と園地視察

(5/1) 写真⑩

県農協農政対策委員会とJA青森中央会は、JA津軽みらい本店で自民党農林部会野菜・果樹・畑作物等対策委員長の藤木眞也参議院議員をはじめ、自民党青森県連、県議会議員、農林水産省職員らとの意見交換会に出席するとともに、豪雪の被害を受けた園地を視察し、豪雪被害対策に向けて国に働きかけるよう要請した。

●生徒向け自転車交通安全教室の開催

(5/1・7・23) 写真⑪

J A共済連青森は、青森県警察本部と連携して、5月1日つがる市立木造中学校、7日平川市立碇ヶ関中学校、23日野辺地町立野辺地中学校にて、「生徒向け自転車交通安全教室」を開催した。プロのスタントマンが危険な自転車走行により発生する交通事故を実演し、自転車走行における交通ルールの理解と実践を呼びかけた。

●県選出国会議員に要請 農業の持続的な発展対策など訴え (5/14) 写真⑫

J A青森中央会と県農協農政対策委員会は、衆参議員会館で本県選出国会議員に対し新たな基本法、基本計画をふまえた食料安全保障の確保、農業の持続的な発展と農村振興、災害・感染症等に強い農業づくり対策など6項目の「令和7年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請」を行った。

4月

5月





### ●国消国産の懸垂幕掲揚（6／2）写真13

J A青森中央会は、「国消国産が日本の食の未来をつくります」「子どもたちの未来に食の安心をつなぐ国消国産」と書かれた懸垂幕を、国消国産を消費者に対し広くPRする目的で県農協会館壁面に掲揚した。

### ●東北5県中央会から豪雪にかかる災害見舞金が贈呈される（6／3）写真14

東北5県の各JA中央会会長より、今冬の記録的豪雪で被害に見舞われた青森県の農業復旧に役立ててもらおうと、豪雪被害に対する災害見舞金が贈呈された。岩手、宮城、秋田、山形、福島の会長らが都内でJA青森中央会の乙部会長に目録を手渡した。

### ●やさい・花き共販大会の開催（6／12）

写真15

J A全農あおもりは、青森市で、令和7年度「やさい・花き共販大会」を開いた。全国の取引会社や県内関係者ら221人が出席し、事業経過や取扱対策について確認した。令和7年度共販目標額を300億円とし、内訳はやさい294億円、花き6億円。

### ●令和7年豪雪災害に対する見舞金贈呈（7／9）写真16

J Aグループ青森令和7年豪雪災害対策本部は、全国機関や他県JA中央会等のJAグループより頂いた見舞金を活用し、豪雪被害を受けた6JA（青森、つがるにしきた、ごしょつがる、つがる弘前、相馬村、津軽みらい）に対し1JAあたり100万円の見舞金を贈呈した。



### ●令和7年度農業所得向上祈願（7／9）

写真17

県農協農政対策委員会は、つがる市の高山稻荷神社で「農業所得向上祈願」を行った。同委員会の乙部輝雄委員長をはじめ、常任委員である県内JAの組合長や県連代表者、女性部、青年部の代表ら21人が参列。県内農作物の豊穣、農畜産物価格の上昇と農家所得の向上、農作業の安全を祈願した。

### ●大阪・関西万博で農畜産物PR（7／14～20）写真18

J A十和田おいらせは、大阪・関西万博25のOR�A外食パビリオン「宴～UTAGE」で開催されている「オオサカ Kizuなイチバ」にゲスト出展した。低臭加工を施したニンニクパウダーを振りかけたナガイモソテーを提供したほか、生産者が出演するPR動画で管内の農畜産物を来場者にPRした。

6月

7月

7月



7月

●「第51回青森県花の共進会」の開催（7／25）

写真19

J A全農あおもりと県は、青森市の県観光物産館アスパムで「第51回青森県花の共進会」を開催した。県内の花き生産者から輪ギク、トルコギキョウ、アルストロメリアなど計120点の出品があり、最優秀賞（農林水産大臣賞）に田舎館村の山谷秀一さんが出品したトルコギキョウ（チアライトピンク）が選ばれた。

●県産米贈呈式 子育て支援などに活用

（8／23）写真20

J Aグループ青森と県農協農政対策委員会は、県内の社会福祉法人や子ども食堂を運営する団体などに県産米「まっしぐら」計約2,400kgを贈った。県社会福祉協議会を通じて、「みんなの居場所」などに活用され、生活困窮世帯や一人親世帯などに食品を届けている。

8月

●令和7年度りんご共販大会の開催（8／26）

写真21

J A全農あおもりは、弘前市のアートホテル弘前シティで令和7年度りんご共販大会を開催した。

令和7年産の集荷目標を650万箱（1箱20kg、前年産比125%）、販売目標を1,080万箱（1箱10kg、前年産比126%）とし、全国の取引会社や県関係者、J Aの代表者ら約220人が出席して、目標達成に向けて意識統一を図った。



●クマ被害対策連絡協議会初開催（9／2）

写真22

J Aつがる弘前は、クマによる人身被害、農作物への被害が多く発生している現状を受け、同J A本店でクマ被害対策連絡会議を開いた。同J Aと津軽地区J A（青森、つがるにしきた、ごしょつがる、相馬村、津軽みらい）のほか、J A全農あおもりの担当者が出席した。

●令和7年度野生鳥獣被害対策本部を設置  
(9／3) 写真23

J Aグループ青森は、クマやイノシシなどによる農作物被害や人身被害が深刻化している現状を受け、「J Aグループ青森 令和7年度野生鳥獣被害対策本部」を設置した。J A青森中央会の乙部輝雄会長が本部長を、天内正博副会長が副本部長を務める。

●J A共済ヘルスアップ講座の開催（9／17）  
写真24

J A共済連青森は、三沢市の「きざん三沢」にて「J A共済ヘルスアップ講座」を開催した。県南地区の組合員とそのご家族、地域住民を対象に、約260人が参加した。本講座は、健康に関する講演やヘルスチェックを通じて健康維持・管理への意識向上を目的に開催している。





25



26



27

9月

●2025国際協同組合年にかかる県知事要請実施  
(9/22) 写真25

国際協同組合年（IYC2025）にあたり、2025国際協同組合年青森県実行委員会は、協同組合が地域社会に果たしている役割や価値について県民に広く認知されるよう、学び・実践・発信を進める取り組みの醸成を目的とし、同委員会の乙部輝雄委員長が宮下宗一郎青森県知事に要請書を手渡し、要請を行った。

10月

●JA共済きずなの青い森プロジェクトの開催  
(10/3) 写真26

JA共済連青森は、JA共済ビジネスサポート株式会社と森林組合あおもりの協力のもと、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割の理解を深めてもらうとともに、参加者同士のきずなを深めることを目的として、「JA共済きずなの青い森プロジェクト」を開催し、JA青森女性部の部員や平内町役場職員など総勢45名が参加した。

●国消国産の日 駅前で街頭宣伝 (10/16)  
写真27

JA青森中央会は、国消国産の日に合わせJR青森駅前で街頭宣伝活動を行った。同駅利用客や通行人に対し、「国消国産」PRパンフレットや県産パックご飯、リンゴジュースなどの県産品300セットを配布。県民理解の醸成を図った。

●青森県議会農林水産委員へ要請 (10/31)  
写真28

県農協農政対策委員会とJA青森中央会は、県庁で青森県議会農林水産委員との意見

10月

交換会を開催し、「持続可能な農業・農村づくりに向けた対策」と「野生鳥獣被害対策の強化」について、国や県に働きかけるよう要請した。

自然災害の激甚化や農業生産基盤が弱体化するなか、農業者が将来展望を持ち営農を継続できるよう、乙部県農協農政対策委員長が和田県議会農林水産委員長に要請書を手渡した。

11月

●JAグループ基本農政確立全国大会及び県選出国會議員との意見交換会 (11/10) 写真29

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟は、東京都で農業関係予算の抜本的な拡大、共同利用施設の集約・再編に向けた補助率引き上げなどを与党に要請するとともに、JAグループの意思結集と反映を図ることを目的に「JAグループ基本農政確立全国大会」を開いた。オンラインを併用し、全国からJAや農政組織の代表者ら4,000人超が参加し、JAグループ青森からは乙部輝雄県農協農政対策委員長をはじめ、JA組合長ら15人が参加した。

12月

●IYC2025青森県記念集会開催 (12/11)  
写真30

2025国際協同組合年青森県実行委員会は、青森市のリンクステーションホール青森で2025国際協同組合年（IYC2025）青森県記念集会を開催した。同委員会に所属する5団体の役職員ら約150人が参加。「協同の力による課題解決」や「SDGsへの貢献」について理解を深めることを目的に基調講演とグループディスカッションを実施した。



28



29



30



# あおもり通信

－ 農林水産省からJA関係者へ情報発信 －

連絡先  
農林水産省東北農政局  
青森県拠点地方参事官室  
TEL: 017-775-2151

## 地域農業の発展、地域経済の活性化のため、女性の活躍・参画を進めましょう！

女性の地域農業組織への参画は、多様な意見の反映や地域組織の活性化など地域農業の発展に寄与します。例えば、「ネットワークを活かした女性の加入推進によるJA運営の活性化」、「女性理事・職員が新商品の提案や農業者の育成に取り組み、農産品の売上増加に貢献」など効果の事例も見られます。

ところが、農業・農村の現場では、主として男性が農業経営や地域農業の方針決定を担っています。就業人口が減少する中、これからは、**男女が共に個性と能力を発揮し、責任と喜びを分かち合いながら、地域農業を盛り上げていくことが重要です。**

### 女性登用がもたらす効果

- ・女性の登用により組織に新たな視点が加わり、男性だけでは持ちえなかった経験やリソースがもたらされる。
- ・結果として農協の自己改革の取組に資する効果が期待される。



農業協同組合・農業委員会「女性登用の取組事例と推進のポイント（令和4年3月）」より

農業従事者のうち女性の割合は約4割\*である一方、農協役員の女性の登用割合は、いまだ1割程度に留まっています。

女性の登用を進め、今後の農業の発展、地域経済の活性化につなげましょう。

\*基幹的農業従事者に占める女性の割合

### ○「第5次男女共同参画基本計画」の成果目標の進捗状況



お問合せ先 農林水産省 経営局 就農・女性課 女性活躍推進室  
電話：03-3502-8111（内線5207）





# 輝き

農林中央金庫 青森支店  
リテール企画班  
ふくし  
福士 かれん さん

●プロフィール

2024年4月から勤務 青森市出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

大学時代に商学を専攻していたことから金融機関を志望しておりました。なかでも金庫は「一次産業の発展に寄与する」という明確な使命を持つ唯一無二の存在であることから、地元貢献にもつながると考え、入庫しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

主に小口ローンの担当として、融資商品の企画・推進を担っています。また、農業融資やバンクローン等の実績集計も行っております。

— 働いた感想は？ —

業務で必要な知識が想像以上に幅広いことに驚きました。以前所属していたコーポレートサービス班と現在所属しているリテール企画班とでは、必要となる前提知識だけでなく、業務スタイルも異なるため、常に学ぶ姿勢や何事にも柔軟に取り組むことが必要であると実感しています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

期日や相手先がいることを常に意識し、優先順位を付けながら業務に取り組むよう意識しています。また、今後は効率性を求めるだけでなく、今まで以上に堅確性も大切にし、迅速かつ丁寧に業務を行えるよう意識していきたいと考えています。

— 特技・趣味は？ —

趣味はドラマ・映画鑑賞と愛猫を愛することです。NO CAT, NO LIFE と思うほど大切な存在です。

— あなたが自慢できることは？ —

料理が得意というわけではないですが、たらこパスタだけは上手に作れます！

— 将来の夢は？ —

担当業務をきちんとこなすことはもちろん、プライベートも有意義に過ごせるような公私ともに充実した生活を送ることが目標です。



地域の“宝”次の世代へ  
「野辺地葉つきこかぶ」40年

内さん  
「野辺地葉つきこかぶ」を全国へ広げたい  
と話す洞力



フルーツのような柔らかさと甘さが特徴の野辺地町の特産品「野辺地葉つきこかぶ」が本年度、生産40周年を迎えた。生産者やJAゆうき青森をはじめとする関係団体は、近年の異常気象や農家減少の対応に苦慮しながらも栽培試験などに積極的に取り組み、町の“宝”を未来へつなげる。

こかぶ生産が始まったのは昭和58年。春から夏にかけて冷たい風が吹く気象条件を活かし、関東産が品薄になる夏場に出荷できるこかぶとして市場価値を高めた。平成8年には部会が発足、平成19年に「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」を商標登録しブランド化を進めている。

一方で、ここ数年は高齢化による離農や夏場の高温で生産者・出荷量ともに減少。現在の生産者は35戸、作付面積は61ha。令和6年度の出荷量は55万2,904ケースだった。

播種後の集中豪雨による発芽不良にも悩まされてきた。部会は、関東の栽培方法を参考にしたトンネル栽培試験に取り組み、一定の手ごたえを感じている。

部会長の洞内英樹さんは「栽培当初に比べ気候の変化もあり厳しい栽培条件になってきている」としながらも「小カブは先輩方が守り続けてきた地域の“宝”。関係団体と協力しながら問題を乗り越え、次の世代に残していきたい」と力強く語る。

# 地産地消は、あなたにも、

## 地域にもいいこといっぱい。



地域の食と農業を元気に!



地域で生産したものを地域で消費するのが「地産地消」。  
その積み重ねが「国消国産」になります。

私たちの国で消費する食べものは、  
できるだけこの国で生産する

食卓に  
いいこと

地域に  
いいこと

地域でとれたもの  
だから新鮮で美味しい。 経済を元気にします。



子ども  
たちに  
いいこと

環境に  
いいこと

地域の食・農業への愛着や  
理解が深まります。

輸送で出るCO<sub>2</sub>の排出を  
抑え環境に優しい。

- 地域でとれたものを食べる
- JA直売所で買う
- 売り場で国産を選ぶ
- 外食の時にも国産食材を使っているお店を選ぶ

それが「国消国産」を進めるために私たちができる  
こと。「地産地消」と「国消国産」が、日本の食と農業  
の持続につながっていきます。



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

## 後編 記集

皆さま、明けましておめでとうございます。2026年も皆さまにとってより良い一年になりますようご祈念申しあげます。

さて、昨年12月中旬頃に青森県立美術館で開催している金魚絵師の「深堀隆介」展を鑑賞しに行きました。深堀さんは、透明樹脂にアクリル絵の具で何層にも重ねて描く「2.5Dペインティング」と称される斬新な技法により立体感のある金魚を作り出しており、今にも泳ぎだしそうなくらいとてもリアルでした。



▲2.5Dペインティング技法による作品（撮影可の場所で撮影しております）



また、「深堀隆介」展の他にも無料の青森県立郷土館サテライト展も1月18日（日）まで開催されておりますので鑑賞してみてはいかがでしょうか？

Have a nice January  
(克)

## ホームページアドレス

■ JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。

■ JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org>

商品・サービスのご案内のほか、マネシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>

生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>

JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

## あおもり国スポ・障スポのメダルと参加章をチェック!



メダル

縄文土器の模様を土台に、大会を象徴する「2026AOMORI」のロゴが、小さなメダルとして中央に乗っているようなデザイン。周りには立体的なりんご模様をあしらい、視覚障がい者にも配慮した、青森らしいメダルです。



参加章

参加章がもらえるよ!  
デモスポに参加した人も

生産量日本一を誇る青森県のりんごをモチーフにしたピンバッヂ。素材には、廃棄されるりんごを使った国産合成皮革「RINGO-TEX」を使用し、りんご生産者にも環境にもやさしい、青森の魅力が詰まったエシカルな参加章です。

## 協賛企業募集中!

私たち青の煌めきあおもり国スポ・障スポを応援しています。

### JAPAN GAMESパートナー (JSPO) 冬季大会



大塚製薬



三井住友海上  
MS&AD INSURANCE GROUP



### 障スポ特別協賛

セレスポ

時事通信

### JAPAN GAMESパートナー (AOMORI)



MJC

株式会社日本マイクロニクス

RAB青森放送



### オフィシャルスポンサー



※2025年12月現在

## 煌メイトとは?

活躍が見込まれる選手やそのチームメイト、ボランティアや県民運動に参加する方々など、国スポ・障スポに向けて「煌めいている」全ての人たちを「煌メイト」と総称しています。

最新情報はSNSでチェック!



●リサイクル対応型インキとして、リサイクル適正ランク「A」並びにエコマーク認定を受けています。 ●FSC森林認証紙は、FSCが推奨する森林管理によって森が守られまた二酸化炭素の吸収にも役立ちます。

[ 2026年1月発行 ]

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局  
〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号(青森県国スポ・障スポ局内)  
TEL:017-734-9703(直通) FAX:017-734-8032

※掲載イメージ

# キラ 煌メイト



冬季大会

青の煌めきあおもり国<sup>き</sup>ス<sup>ポ</sup>  
冬季大会いよいよ開幕!

**pick up! 煌メイト**

活躍が期待される注目選手

**煌ニュース**

国スポ・障スポの情報をお届け

**競技会場地マップ**

各市町村で開催される競技をチェック!



公式マスコット  
「アップリート君」

**青の煌めきあおもり国<sup>き</sup>ス<sup>ポ</sup>・障<sup>ス</sup>ポ**

2026

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

第80回国民スポーツ大会(冬季大会・本大会)・第25回全国障害者スポーツ大会

国<sup>ス</sup>ポ<sup>ト</sup>冬季大会:2026年1月31日(土)~2月17日(火)

国<sup>ス</sup>ポ<sup>ト</sup>本大会:2026年10月10日(土)~10月20日(火)

障<sup>ス</sup>ス<sup>ポ</sup>:2026年10月23日(金)~10月26日(月)

# 日本農業新聞 電子版が アプリでさらに便利に!



最新の記事は  
トップに大きく掲載されます。読み  
込み速度も速く、  
読みたい記事に  
すぐにアクセスで  
きます。

その日の記事を  
すぐにチェック

日本農業新聞ニュースアプリ

スワイプで移動 /



速報などを  
お知らせします。



カテゴリーが  
スワイプで簡単  
に選択できます。

長押し+スライド  
で読みたい順に並  
び替えもできます。

カテゴリー記事に  
簡単アクセス

※画面はイメージです

動画で操作方法など説明

アプリへのログイン方法や特長など、詳しい説明をご覧いただけます。

アプリをダウンロードする

日本農業新聞公式ウェブサイトからダウンロードにお進みいただけます。

お問い合わせ

日本農業新聞 電子版事務局  
dkanri@agrnews.co.jp

※ アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。※ App StoreはApple Inc.のサービスマークです。※ AndroidはGoogle Inc.の登録商標です。



# 家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に  
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!







冷蔵庫レボリューション  
特集 帰りがまわる! むだが減る!  
伊藤沙莉

読者に寄り添い  
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

誌名	定価(税込) ※毎号統一価格
家の光 IE no HIKARI	900円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <https://www.ienohikari.net/>

30 ● K I Z U N A January 2026